



18年間、 毎月欠かさない妙光寺詣り

新潟市西蒲区
津野洋子さん(81歳)

新潟で生まれた津野さんは、商業高校の受験に失敗した16歳のとき「自分は手に職を付けて生きていこう」と決めた。紳士服の仕立てを営む母方の叔父夫婦を頼って上京。そこに下宿させてもらい、服飾の専門学校で3年間みっちり学んだ。その間に父親が失業し「戻って結婚しろ」と言われたが、気丈な性格もあって受け付けなかった。

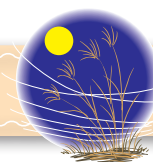
卒業するや姉の紹介で、高島屋デパートの主任デザイナーのアトリエで5年働いた。その後玉川高島屋デパートの開店で、パリから戻ったばかりの服飾デザイナーのアトリエに一番で入り、住み込みで働いた。デパート経由で芸能人や皇室からも注文があった。裁断から縫製までを担い、独立の夢に向かって邁進した。

気がつけば40歳になっていた。個人客もついで独立を果たし、運転免許もとって都内や近郊を営業して回る繁盛ぶりだった。

(2ページに続く)

妙光の光

復刊121号



行事案内

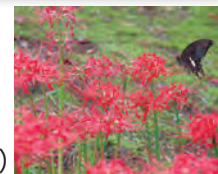


お彼岸中日法要

9月23日(金・祝)

午前10時30分 安穩廟法要
11時 秋季彼岸会
中日法要(本堂)
12時 おとき(持ち帰り弁当)

※どなたでも、ゆっくりお参りいただけます。



古墳まつり

9月24日(土)

午後13時30分～16時

※詳細は10ページのインフォメーションをご覧ください。

石山与五栄門展

10月8日(土)～11月13日(日) 客殿大広間

西蒲原の自然と暮らしを見つめた写真家、石山与五栄門さんの写真展です。

※詳細は別紙案内をご覧ください。

中野亘陶展

11月3日(木・祝)～11月7日(月) 京住院

毎年秋の恒例となった中野亘さんの陶芸展です。展示と販売があります。

※詳細は別紙案内をご覧ください。



お会式と第20回法号授与式

11月6日(日)

午前 9時 法号授与者研修
11時 お会式、法号授与式
12時 おとき(持ち帰り弁当)

引き続き午後の“浄土講座”にご参加下さい。

※詳細は別紙案内をご覧ください。同封のハガキでお申し込みください。



第9回浄土講座

終活の現場から――

“終活”情報誌の元編集長が語る、終活事情の裏表

11月6日(日)

午後13時半～15時半(午前中はお会式です)

参加費 500円 ※要事前申し込み

※詳細は別紙案内をご覧ください。参加を希望される方は電話、FAX、メール等でお申し込みください。

七五三詣り

11月13日(日)

午前10時30分 受付
11時 ご祈祷

お子さん、お孫さんの健やかな成長を願い、七五三のご祈祷をいたします。

※詳細は別紙案内をご覧ください。同封のハガキでお申し込みください。



合同法事

12月4日(日)

今年、年回忌(法事)が当たっていたけれど都合でできなかったという方のために、合同の年回忌法要を営みます。檀信徒・安穩会員どなたでもお申し込みいただけます。

午後2時 受付
2時30分 法要
3時30分 銘々で墓参り

費用：●塔婆1霊位 2千円

●お供物共通経費 2千円 ●お布施

持物：位牌、墓参用の花、ロウソク、線香

※11月30日までに電話、FAX、メール等でお申し込みください。参列は平服でどうぞ。

月例ボランティア 毎月15日

午前9時～12時 午後1時～3時

堂内や境内の清掃等をお願いしています。都合の良い時間にお越し下さい。昼食はご持参願います。



月例信行会 毎月第一日曜日

10月2日・11月6日・12月4日

午前7時～9時

会費千円(当日賽銭箱にお願いします)

予約申込み不用。当日直接お寺へお越し下さい。

お参り、法話、作務、朝粥の朝食、コーヒータム等があり、交流の輪も広がります。

※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、すべての行事において内容を変更する場合があります。ご了承ください。

あとがき

世界的な異常気象の影響とかで暑かった夏も、ようやく終わりました。コロナ禍も収まらず、ウクライナでは戦火が続いています。思わず不安になってしまうこの頃ですが、秋の妙光寺はいつもと変わらずに、みなさんをお待ちしています。どうぞお出かけください。(新倉理恵子)

良い声を聞きましたね

実は、この日の通夜の間、私と一緒に読経する男性の声が、確かに聞こえていたのです。コロナ禍ということもあり、参列者は娘さん夫婦2組とお孫さんだけでした。日蓮宗ではないと聞いてはいましたが、お孫さんがおじいちゃんのためにお経を覚えていたのかな、と思っていました。ところが、その場にいた男性の誰も、自分は声を出し

一緒に読経する男性の声

先日、京住院での通夜が終わった後に、ご遺族である娘さんから「亡くなった父の声が聞こえませんでしたか？」と尋ねられました。すぐに意味を理解した私もとても驚き、「聞こえました。ご家族のどなたかが、一緒に読んでくれていると思っていたのですが違うのですね」と、つい確認をしてしまいました。

亡くなった父の声が聞こえた？

ていまいとおっしゃるのです。家族以外に通夜の場にいた男性は、司会進行をする葬儀屋さんが一人だけです。葬儀屋さんが一緒にお経を読むことは、まずあり得ません。さらに驚くことに、声が聞こえたのはその場にいた全員ではなく、ご家族の半数の方々とのことでした。これが全員に聞こえていたならば、お孫さんが照れくさくお経を唱えたと言えなかった可能性もあります。また、私かあるいは娘さん達だけに聞こえていたならば、気のせいということもあるでしょう。半数にだけ聞こえた、というのがいかにも不思議な話に思えます。

大勢の読経の声

聞こえるはずのない読経の声が聞こえるというのは、実は珍しい話ではありません。以前、日蓮聖人に縁のある千葉の清澄寺で、「僧道林」という5日間の修行場のお手伝いをしたことがありました。私ともう1

信じられると良いな

さて、通夜のご遺族に話を戻します。「絶対にお父さんの声ですよ」と言うのは、最近問題の靈感商法にも繋がりがねないので、断言はできません。けれど、こうした経験から、故人の声だったのだろうと私は信じていますし、信じられると良いなと思います。みなさんはどう感じるでしょうか。

新潟市西蒲区 津野洋子さん



理不尽に立ち向かう

35歳の時に父親がガンで亡くなった。4人姉妹の三女で独身だったせいか、遺産相続の相談にも加えてもらえなかった。その寂しさや悔しさを、上京したとき世話になった叔母が慰めてくれた。おかげで仕事も順調なこともあって「身体も丈夫だし、一人で何だつてできる」と思えるようになった。

その優しかった叔父と叔母には子どもがなかったたので、親戚から養子を迎えた。大卒で叔父の店の営業を任されたその養子は、ギャングル好きだった。叔父が亡くなると、兄弟まで出てきて財産に手を付けてきた。恩のある津野さん

は「許せない。叔母さんの老後がめっちゃめちゃにされる」と怒り、取引のあった銀行の力を借りて、財産を叔母の手に取り戻した。叔父が亡くなる前にも「なぜ残される叔母さんの為に、後々の手続きをしつかりしないんですか？」と尋ねたことがあった。「その時はその時だ」が叔父の答えだった。「男として無責任。でも昔の人だからしょうがないんですね。叔母さんも何も言えないんだから」と振り返る。

叔母を看取り安穏廟へ

その後78歳を迎えた叔母を引き取り、2人で暮らした。津野さんは52歳の時「あなたは実家の墓には入れない」と言われた。それを機に叔母の養女になって、今の津野姓になった。「いずれ2人の郷里に帰ろうね」の言葉通り、60歳の時東京のアトリエをたんで新潟に土地を買い、家建てた。まもなく叔母は持病の心筋梗塞が悪化し、入院先の病院で「起こして」の言葉を最後に私に抱かれて91歳で亡くなりました」と語る。

事情があつて横浜にある叔父の津野家の墓に入れなかったため、近所に住む自分の妹の菩提寺に葬儀を依頼して遺骨を預かってもらった。その寺の奥様が「うちとは宗派が違うけど、評判の良いお寺のお墓がある」と教えてくれたのが、安穏廟だった。

月に3〜4回は妙光寺へ

「訪ねて驚いたのが、どこのお寺にもないきれいに管理された墓地と境内でした。それにどこことなく活気がありました」 いずれ自分もこのお世話になるのだからと、新たに叔父と叔母の法号を付け直し、買い求めた仏壇に2人の位牌も並べた。「とてもホッとしたし、2人も喜んでくれたと思います。」以来、津野さんの妙光寺通いが始まった。「運転が好きだから20分もあれば来られます」と、毎月



津野さんが修復した旗

のボランティア作業、季節ごとの行事も欠かすことなく参加し、いつの間にか18年が過ぎた。これまで縫製の技術を生かして、「妙光寺手作りお守り」を作ったり、風で裂けた回廊に回す「五色幕」の修復を手がけたりしてきた。中でも毎年「ご判様」の行列に使う「旗」の修復は、「古くて生地がボロボロになって大変だった。でもこんなに良い生地は、今探せない」と言う。「体調崩して休んでいた水泳も、クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライまでマスターしたんだから、再開して体を柔らかくし、そろそろ終活を始めようか」と笑顔で語ってくれた。

(院首記)

◆角田浜海開き 6月30日

例年の角田浜観光協会主催による、海水浴場安全祈願祭に出仕しました。



◆『万灯の灯り～妙光寺の送り盆～』 8月27日

今年の『送り盆』は、雨とコロナの直撃?で、2日前に更なる規模縮小を迫られました。(10ページに詳細ご報告)



密を避けて法要も大幅に縮小しました。



雨に煙る院庭で、灯籠が静かに精霊を送りました。



この日のために、沖縄、神戸から集った家族が、半日静かに思いをはせました。



約50名の参加でした。

◆山門の「結界」を改修しました。

山門の中央には、聖の世界と俗世界を分ける「結界」があります。神社のしめ縄も同じ意味です。従来的一段高い石ではつまずく危険があるため、平らな石に取り替えました。踏まずにまたいで、お入りください。



◆山の墓地で大木が倒れました。

6月の雨風で、根元から大木が倒れてしまいました。幸いにして下の木に寄りかかって止まりましたが、危険なためお盆前に緊急除去作業を行いました。墓地移転計画を進めています。



寺のうごき



◆お盆法要

雨続きの夏でしたが、お盆法要は晴天に恵まれて墓参の方々と賑わいました。



8月1日施餓鬼法要



8月1日墓参風景



8月7日新盆法要

◆岩屋七面様祭礼 8月19日

本堂での法要の後、参詣の皆さんと共に行列で岩屋に向かい、ロウソクの明かりに包まれて法要を行いました。



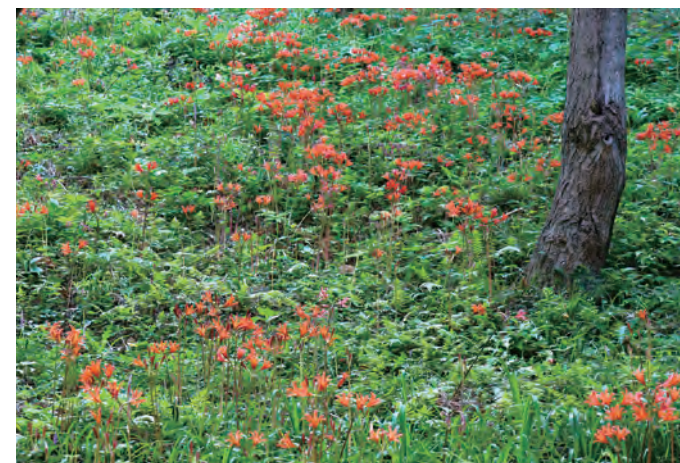
岩屋法要



岩屋に向かう行列

◆キツネノカミソリの群生

新たに整備された古墳に登る登山道両側で、キツネノカミソリの群生がお盆過ぎに開花しました。中には10万本に1本と言われる白い花もありました。



—原田健一先生に聞く—

「私たちの現在」を見つめなおす

石山与五栄門展

旧巻町で活躍した写真家・石山与五栄門さんの写真展が、
10月8日から妙光寺などの3カ所を会場に行われます。

1950年代から60年代の西蒲区の写真です。

2022年の今、石山さんの写真を見る意味を、

写真展の実行委員長である原田健一先生にうかがいました。

モノクロ写真は『石山与五栄門展』で展示される一部で、「にいがた 地域映像アーカイブ・データベース」より提供いただきました。



鏡潟の秋

Q 写真展の紹介を、
お願いします。

原田 郷土資料館、砂丘館、そして
ここ妙光寺の3会場で、10月8日～11
月4日の日程で行います。石山さんの
様々な面を紹介するためには、3会場
で行う必要があると考えました。

Q 3会場はそれぞれ、
どんな風になりますか？

原田 中央区の「砂丘館」では「**鎧**
湯」がテーマです。石山さんは生前「写

真集 鎧湯」をまとめています。写
真集はこの1冊だけです。重要な
テーマだったのでしよう。石山さんの
情緒的なものが一番出ている展示にな
ると思います。

「郷土資料館」は、かつて石山さんが
館長を務めていたゆかりの場所です。
テーマは「公民館活動」です。戦後の
青年会や婦人会など、たくさんの勉強
会や行事の様子が撮影されています。
みんな新しい考え方を生活の中に入れ

たいと、未来への熱い思いをもって頑
張っていた時代です。人々の表情の写
真をたくさん展示します。

「妙光寺」は、「村の自然や人々の営
み」がテーマです。石山さんは妙光
寺にも度々訪れて、撮影していまし
た。風景や仏事、浜辺の暮らしなど
を、石山さんは季節ごとの光の中で
とらえています。石山さんの美的な
芸術的な感覚を反映した展示になる
でしょう。

Q 石山さんの写真から「現在」が
見えるんですね。

原田 人間は有限ですからね。人間の
命には限りがある——つまり人は死に
向かって生きている、のです。だから
こそ、自分たちの大切なものを未来に
伝えたいと思うのでしょう。これは想
像ですが、石山さんの年代の人たちは
戦争をくり抜けていますから、死を
どこかで日常的に意識していたのでは
ないでしょうか。その経験が「遺した
い、伝えたい」という思いになって、
私たちに「過去の蓄積」を見せてくれ
ていると思います。

Q この度の写真展は、石山さんの
写真が新潟大学の「にいがた地
域映像アーカイブ・データベー
ス」で閲覧できるようになった
ことを記念して行われると聞き
ました。「地域映像アーカイブ」
について教えてください。

原田 写真は200年、動画は150
年ほどの歴史がありますが、映像の歴
史はある意味で「中央」の歴史でした。
日本であれば東京が中心です。しかし
遺されている映像の分量は、圧倒的に
地方——地域にあるはず。古文書
は千年でもありますが、写真は化学変



最高人出の角田浜海水浴場

化を起こして溶けてしまっています。新潟
の地域に残された貴重な映像をデジタ
ル化して公開していくために、15年前
に「地域映像アーカイブ」を立ち上げ、



妙光寺の御判



暮れの市

展開してきたわけです。現在新潟県内
の市町村や個人の映像資料を、約20万
点公開しています。そして日本各地の
資料を公開する「ジャパンサーチ」と



原田健一先生 (66歳)
新潟大学文学部フェロー。ご自
身は東京出身だが、お父様は新潟
県出身。

Q 石山さんの写真に写っているの
は、少し昔の日本の風景です。
若い人の中には「なぜそんな昔
のことを知らなくてはいけない
のか」と思う人もいます。どう
考えたらいいのでしょうか？

原田 若いときは新しいものが好きで
すから、昔のものに関心がないのは当
たり前です。若い人はどうしても、今
自分がいる場所ではなく、どこか遠く
の新しいものに憧れます。でも我々は、
未来の中で生きることができません。
現在に生きていて、その現在は過去の
蓄積が生み出しているわけです。私た
ちの感覚や思いは、過去の中で作られ
ているんです。人間には身体がありま
すから、いくら遠くの新しいものに憧
れても、一回まわってここに戻ってき
てしまふ。石山さんの写真には、「私
たちの現在」を作ったものが写されて
います。

Q 写真や動画を保存
することの意義を、
教えてください。

も連携していますので、
インターネットを通じて
日本中の皆さんに利用し
ていただくことができます。

原田 昔の人が遺したも
のは、文字で書かれたも
のが多いわけです。しか
し文章を書くというのは
難しい行為です。うまく
書ける人であっても、遺
された言葉は微妙に事実
と違っている場合があります。
ます。それに比べて映像
は、逆に、余白がいっぱ
いあって、撮る人の考え
たもの以上のことが写っ
てしまう場合が多いので
す。映像は、人間の感情
や感覚を言葉とは違う形
でとらえます。そこに文

Q 石山さんの写真も、そこに加
わったわけですね。

原田 今春から、石山さんの約



には個人的な表現も現れています。

公的な「記録」でありつつ、個人的な思いもあるということですか？

原田 石山さんの写真には、公民館職員としてみんなの思いを撮るという「公」の側面だけでなく、個人の表現——いわば芸術（アート）の側面もあります。その公でもなく私でもない、公私入り乱れたところが重要で、魅力でもあります。いわば「ある種の使命感をもって日常を扱った写真」といえると思います。

Q 石山さんが撮影した時代は、日本が大きく変わっていった時期ですね。

原田 戦後の占領軍による民主化から、高度経済成長に至る時代です。石山さんは、鎧潟の写真を熱心に撮影しています。鎧潟はかつて西蒲区にあつた潟湖ですが、戦後の干拓によって今は農地になっています。戦前は農地の問題の管理は地主任せになっていましたが、戦後の農地解放で民主主義の時代になりました。自分たちの地域のことを、自分たちで選択して決める時代になったわけです。新しい生活をどう作るか、人々が選択しながら生きてきた様子を石山さんは記録しています。鎧潟の干拓は、今となっては良かったのかという面があるかもしれませんが、その時はそれがベストだったのでしょう。石山さんにも、進んでいく干拓への期待もあり、消えてなくなっていく鎧潟への思いもあったはずですよ。石山さん自身の中にも、多面的な時代の矛盾がある。その時代の選択を総体として受け止めた一つの結果が、映像として残っているのです。

Q その時代を共に生きている地域の人たちが石山さんの被写体ですね。

原田 映像には「写す人」と「写される人」がいるわけですが、写される側は「できあがった写真を見たい」という願望を持っています。石山さんの写真では、「写される人」が「これに残したい」と思って写されている気配が

あります。石山さんと「写される人」たちのつながりがあるから、地域の人たちも「しっかりと撮ってくれ」と思って写っているのでしょう。石山さんの写真には、「これを遺したい」という撮影者と写される地域の人たちの関係性が積み重なっています。撮影しているのは石山さんですが、被写体である地域の人たちの意志が写真に表れているのです。撮影者の意志だけでコントロールできないという映像の特性がよく表れています。

Q 1960年生まれの私にも、見覚えがある風景の写真です。

原田 確かに見覚えがある風景です。でも珍しいものや特別なものは残りやすいのですが、目の前にある当たり前のものが残っていくのは、大変です。だからこそ石山さんの写真を保存・公開する意義があります。

多くのみなさんに写真展を見ていただいて、そして是非「にいがた地域映像アーカイブ・データベース」もネットで見えていただきたいと思っています。

写真展が楽しみです。ありがとうございました。

（聴いた人 編集部・新倉理恵子）

誌上法話

小川良恵

最初の信心を起こす

『分別功德品第十七』

仏様の寿命が永遠であると説かれた『如来寿量品』に続く『分別功德品第十七』では、この教えを聞き、信じることによる功德が明かされます。

宗教的な功德

「功德」とは善い行いと報いのことですが、この章では私達が日常的に想像したり期待したりする、いわゆる御利益よりも、宗教的な意味合いが強く語られています。たとえば、仏様の教えを正確に記憶する呪文や、教えを説くための弁舌などを得ることが出来るということです。こうして、「功德」を12段階に分類——つまり〴〵分別、するのが、本章の前半部分です。

「現在の四信」と「滅後の五品」

章の後半からは、法華経の流通分と呼ばれる段に入っていきます。流通とは、仏法を弘めていくことを意味します。これまで説かれた教えに基づき、どのように未来へと布教していくのか、その方法等が顕されます。

ここでは、「現在の四信」と「滅後の五品」につ

いて語られます。「現在の四信」とは、仏様が生きていた時代の修行者が、教えを聞いて得る信仰の段階のことです。わずかでも信仰心を起こす初期の段階から、深い信心に達して真理を観じるまでの四つがあります。「滅後の五品」とは、仏様が亡くなった後で、修行者が教えを見聞して、修行する五つの段階のことです。初随喜品^{しよすきほん}といって、「如来寿量品^{しよらうぎやう}」の教えを聞いて喜びの心を起こす段階から、正行六度品^{しょうぎどほん}といって、自分のために修行するだけでなく人をも教化する段階まで五つに分類されます。どちらも修行者の段階を説いていますが、仏様の入滅後は教えが弘めにくく、信心を起こしづらい時代です。「四信」が内面的な差異で分けているのに対し、「五品」は外面的に分かりやすく、具体的な行動の違いで段階分けをしているようです。

くおんじつじょう 久遠実成の釈迦牟尼仏

いずれにしろ、最も肝心なのは最初の信心を起こす段階であると、日蓮聖人も強く説かれています

雨とコロナの直撃？で 大幅変更の送り盆

開催のお知らせ以降さらにコロナが拡大したため、途中で内容を練り直し準備していたところ、直前で寺内部者に感染疑いができました。PCR検査を受けたのですが、結果判明に最大2日要すること、安全を期して200名超の申込み者に通知し、cobaさんの演奏会を延期しました。

前日の午後に検査結果が陰性と判明したこともあり、換気の問題の無い法要と、「霊山の送り火灯籠」のみを実施しました。ご迷惑をお掛けしたことを深くお詫び申し上げます。cobaさんからは「皆様の前で心置きなく演奏できる日を楽しみにしています」とメールをいただきました。

墓地の崩落と移転スケジュール

7月中旬に山側墓地の斜面で、大木が根元から倒れました。かねてより懸念されていた土砂崩落の前兆と考えられます。幸い下側の木に寄りかかって途中で止まったため、直接の被害はありませんでした。しかし連日続いた雨で、8月1日のお墓参りの危険が予想され、伐採処理と応急の崩落防止処置を行いました。



墓地移転先(冬期に空撮)



7月に開催された7回目の墓地移転説明会



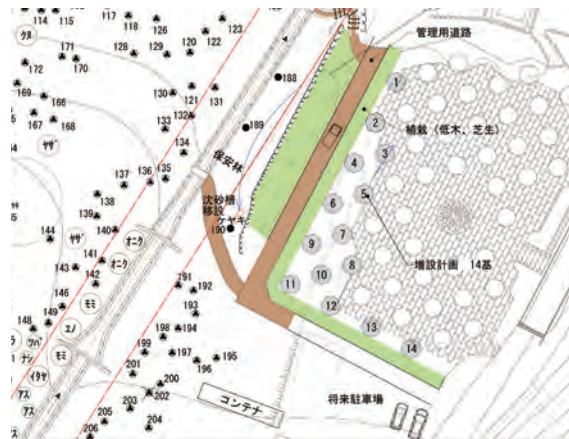
落石の直撃で壊れた墓石

大がかりになる土留め工事は出来ないで、80件近い墓地使用者に説明会を開催して、平地への移転協力をお願いしました。年内に移転先墓地の本設計と見積り・保健所との事前協議を行います。来春に着工し、お盆前に完成予定です。同時に今後、継承者不明墓石(無縁墳墓)の調査と廃止手続きを進めます。

*8月末、落石の直撃を受けて墓石が壊れる事故が発生しました。移転対象者のお墓参りは十分お気を付け願います。

「安穩廟」増設

『安穩廟―杜の安穩・池の上』が満杯になりました。引き続き希望者があるため、隣接地に14基112区画を増設します。保健所の内諾が得られたので、予約申込み受付を開始しました。来年7月完成予定です。諸条件から今回が最後の増設となります。図面の①～⑭が増設予定の14基です。



①～⑭が増設予定の14基

秋の行事

日程はp12の行事案内をご覧ください。

『古墳まつり』

先頃発見された『角田浜妙光寺山古墳』を、地元地域の宝物として子どもた

水害

今年の夏の降水量は、異常でした。中でも県内村上地区は大きな被害に見舞われました。報道された被災地にお住まいの会員さんにお電話しましたら、床下浸水のお宅が1軒あり、お盆のお経も中止して、浄土基金からお見舞をお送りさせていただきました。秋も雨が多いようですので、引き続きお気を付けいただきたいと思っています。

年会費等口座引落しの方

10月27日に、ご指定の口座から引落しをさせていただきます。口座残金の確認をお願いいたします。特にご希望が無ければ、通帳記載をもつて受領書の発行を省略させていただきます。

インターネットメールで ご連絡の際のお願い

ホームページの連絡窓口や、インターネットメールで行事参加申込み等をされた場合、妙光寺から必ず着信を確認した返信を差し上げています。返信がない場合は、通信の支障等々により妙光寺に着信していないことが多々あります。お手数ですが再度の確認をお願いいたします。

『石山与五栄門展』

『石山与五栄門展』を、妙光寺を含む3会場で開催します。(6ページ参照)石山さんはネイチャーアカリウムで有名な故天野尚さんや、写真家の斉藤文夫さんに写真の魅力を教えた人としても知られています。妙光寺院首も旧巻町の歴史研究で大変お世話になりました。

妙光寺会場では、昭和の時代の妙光寺や西蒲原の風景、人々の暮らしが、情感あふれる作品として60点展示されます。石山さんの写真は、インターネット上ではいつでもご覧いただけますが、大きな印刷紙に焼き付けられた写真を直接見るのは、今後は難しいと思われまます。ぜひお出かけください。

『お会式』と『浄土講座』

別紙ご案内の通り、日蓮聖人ご命日の法要である『お会式』と、併せて第20回の法号授与式を行います。一般にいう戒名ですが、日蓮宗では法号と言いい、檀徒であれば生前に授かるのが本来の姿です。またお金で買うがごときに言われることが多いのですが、妙光寺に戒名料はありません。当日頂戴する費用は、数珠と法号を刺繍した略式輪袈裟といった祈念品の実費です。事前に希望される文字等をお尋



新潟市東区での牡丹山古墳まつりの様子